

# ジェンダー格差の解消をめざして、いまできること —家事労働の視点から

すべての人が貧困や差別から解放され、人類全体が、地球を守りながら平和に繁栄するために国連が定めた行動目標、SDGsをみなさんはよくご存知だと思います。17の目標の5番目は「ジェンダー平等を実現しよう」で、5-4ではとくに、「家庭内の子育て、介護や家事などは、お金が支払われる仕事と同じくらい大切な「仕事」である」と述べられています。ジェンダー平等の達成と、家庭内のさまざまな仕事の大切さ、私たちみんなの繁栄はどのようにつながっているのでしょうか。

## (1) 家事労働に従事する時間の格差

図<sup>1)</sup>は、内閣府男女共同参画局が2020年に発表した白書「家事・育児・介護」と「仕事」のバランス』に掲載された、生活時間<sup>2)</sup>において有償労働と無償労働に従事する時間の男女別(15歳～64歳)の国際比較です。このグラフから、どのようなことが読み取れるでしょうか？

## (2) 有償労働と無償労働

上記の統計で「有償労働」と言われている時間には、「有償労働(すべての仕事)」「通勤・通学」「授業や講義・学校での活動等」「調査・宿題」「求職活動」「その他の有償労働・学業関連行動」が含まれています。みなさんが通学し、勉強する時間はここに含まれます。

一方、「無償労働」の時間は、「日常の家事」「買い物」「世帯員のケア」「非世帯員のケア」「ボランティア活動」「家事関連活動のための移動」「その他の無償労働」の時間です。「無償労働」として、具体的にはどのようなことが考えられるでしょうか？

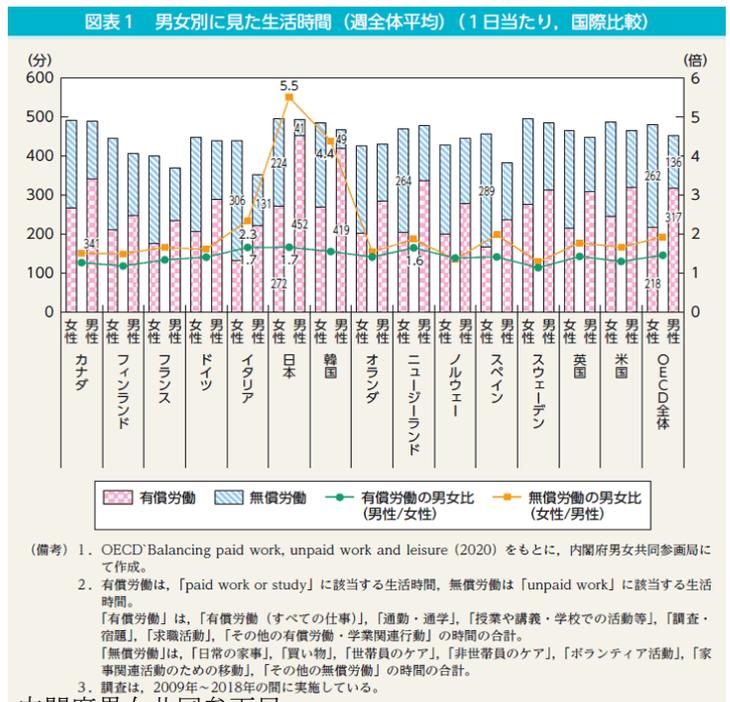
## (3) なぜ、無償なのだろうか

有償労働は、近代になって、みんなが必要とするものをつくるために使った時間と労働力の対価を、お金で受け取るようになって始まりました。家事労働が有償ではなく無償でおこなわれるものになったことは、それを担う人に影響を与えてきました。どのような影響が考えられるでしょうか？

## (4) 無償労働は、いらぬ労働なのだろうか

(2)で、どのような労働が無償労働に当たるか考えてもらいました。それらは、食事をしたり、休息したり、健康を維持したりすることに関わる、すべての人にとって必要な仕事で、誰にでもできる意味のない労働ではありません。また、ここに含まれる仕事のなかには、みなさんの好きなことも含まれていませんか。料理をしたり、部屋を整えたり、誰かを助けたりすることは、創造的で楽しいことでもあります。

しかし、(1)で見たとおり、そこには深いジェンダー格差があります。誰にとっても必要な仕事を、格差の生まれる場所ではなく、誰もが暮らしを豊かに、楽しくする時間にするために、私たちはなにができるでしょうか？



内閣府男女共同参画局

「男女共同参画白書 令和2年版」コラム1から転載

1) <https://www.gender.go.jp/about/danjo/whitepaper/r02/zentai/html/zuhvo/zuhvo01-c01-01.html>  
2) 労働時間、家事労働時間、生理的必要充足時間、自由時間からなる一日の生活時間。